

資料 1

普及形 I

01 02 03 04

05 06 07 08

09 10 11 12

普及形 I 用意

普及形 II

01 02 03 04

05 06 07 08

09 10 11 12

13 14 15 16

普及形 II 用意

※普及形 I：初心者向けの平易な形の創作を目的として、1941 年（昭和 16 年）に沖縄県知事によって空手道専門委員会が組織され、長嶺将真氏が創作した形

※普及形 II：初心者向けの平易な形の創作を目的として、1941 年（昭和 16 年）に沖縄県知事によって空手道専門委員会が組織され、宮城長順氏が創作した形

指導の難しさ

3

今までの授業形態

2

2012（平成24）年度から「中

学校を統合し、島外から児童・生徒を受け入れ、2016（平成28）年に小中一貫教育校「屋我地ひるぎ学園」として開校し、現在は小学生109名、中学生49名の158名の在籍人数で、今年で4年目を迎える。

在籍人数が少ないため、空手道授業においては全校生徒が男女分け隔てなく一緒に授業に取り組ん

でいる。昔から空手が身近にあることで授業前アンケートからも、他の学校と比べ「厳しい」「怖い」「痛い」という負のイメージがなく、授業を行っているのが本校の特徴の一つである。

しかし、空手の歴史や礼法、形の動き方や、基本動作に関して、わからない生徒が多い現状があった。

2014（平成26）年度までは、授業時数が8時間程度と短く、保健体育科教諭が1人で授業を行い、基本動作や形を中心に授業を展開し、単元の最後に団体形を生徒同士で見せ合い、お互いが評価をする授業形態であった。

また、道場に通っている生徒がリーダーとなり、基本動作の技術的な動きや形の拳動や連足を教え、それを教師と一緒に取り組む授業が主だった。

シリーズ

中学校武道

授業の充実に向けて

135

つまずきをどう克服したか
「専門的な実技指導者との連携による空手道授業」

名護市立小中一貫教育校
屋我地ひるぎ学園・屋我地中学校 教頭 松田 健

1960年代、屋我地小学校（現屋我地ひるぎ学園）に仲井間憲孝氏（沖縄劉衛流4代目宗家）が校長として赴任し、学校近くの校長住宅で、放課後、小学校6年生を対象に空手の指導をしていた経緯がある。このようなことから「屋我地島」は、昔から空手と密接な関係性をもっている。

武道を経験したことがない保健体育科教諭が、どのように武道の授業を実践し、つまずきを克服してきたか。当校の取組を参考にしていただければ幸いである。

1

学校の概要

本校は、沖縄本島北部の屋我地島に位置し、周りを海に囲まれた風光明媚な場所にある。学校の生い立ちは、屋我地小学校が1887（明治20）年に、屋我地中学校が1948（昭和23）年に創立され、小学校が開校130年、中学校が70年という歴史深い学校である。しかし、近年、児童・生徒の減少に伴い、隣接していた小学校と中

93

月刊「武道」 2020. 3

2020. 3 月刊「武道」

92



オリエンテーション



移動基本



普及形1の見本の演武



普及形1の練習

催している。
7月の講習会では空手の歴史や授業での基本動作、「普及形Ⅰ・Ⅱ（資料1）」の実技・指導方法、教材の作成と工夫、形の運足（資料2）、団体競技における競技の仕方、評価方法など授業に直結した講習会を行い、最終日には質疑の時間を設けて、教職員の疑問に答え、講習会後も安心して授業に臨めるような工夫を行っている。教材の作成、工夫においては、

2人1組になり、新聞紙を広げて突かせたり、足ジャンケンやタッチ組手、段ボールを活用してのミット作成（資料3）等を取り入れ、生徒に興味、関心を持つような教材の工夫を行っている。
1月の講習会では、7月に受講した教職員に希望を募り、モチベーションを高めるために段位取得の試験を実施し、資質・向上の取り組みを行っている。

授業内容は、毎年13時間程度の授業計画（資料4）をもとに実施している。空手道の歴史、礼法の単元では空手道の特性や「礼節」を重んじ相手を尊重する武道であることを理解させ、さらに伝統文化を継続・発展し、技を習得させ

授業内容

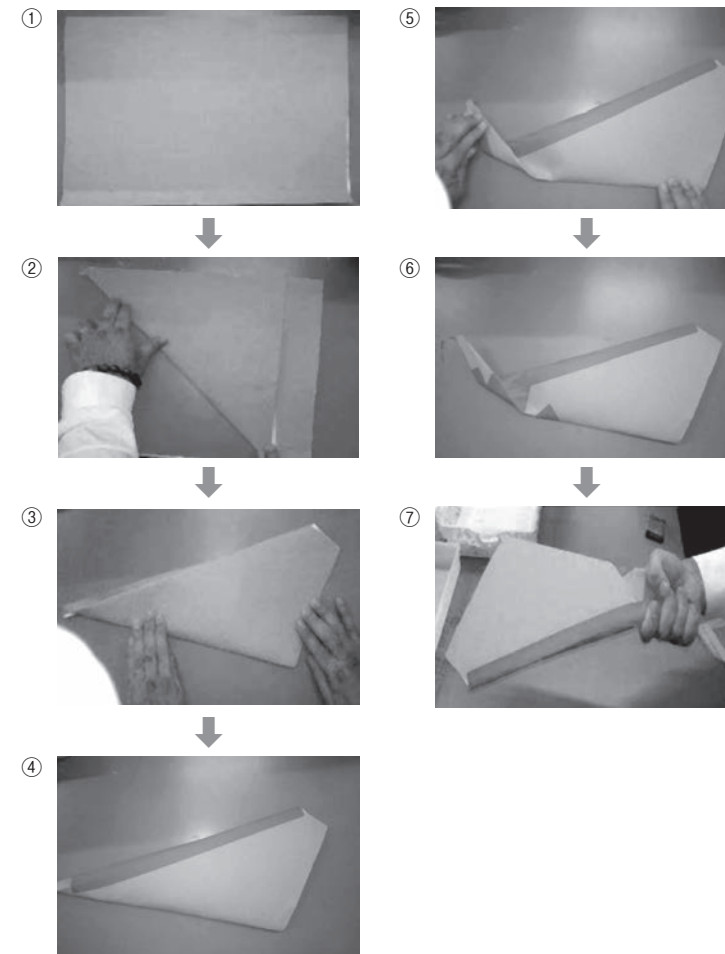
5

ることを「ねらい」として授業を行っている。

基本動作は、空手の授業を行う上で最も大切なことを生徒に理解させ、手や足の正しい位置を確認しながら、立ち方の種類と基本動作の意味、体の使い方、左右のバランスの大切さを教えている。

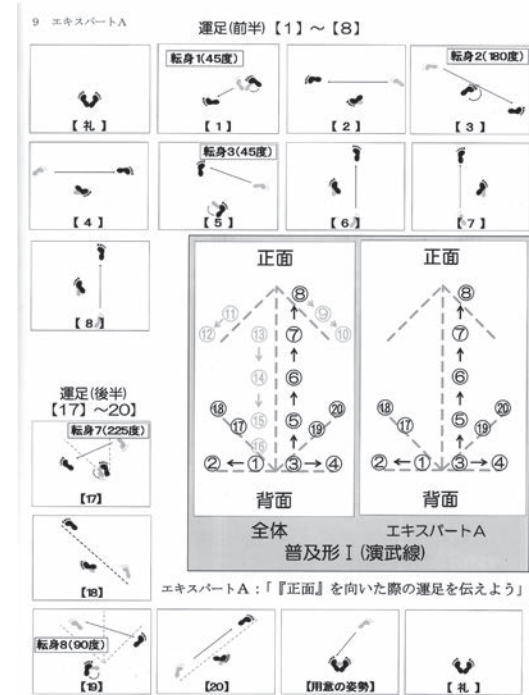
突き・蹴りの単元では、正しい姿勢を意識させることで「力」を入れる部分を確かめ、正確に行わ

資料3



段ボールを活用したミットの作り方

資料2



第2巻 第3回 高等学校保健体育科学習指導要領「武道学習（フットワーク・ランニング）」を記した授業計画（12時間） 47

（普及形の運足）

※沖縄県「学校体育における空手道指導書」より

指導者の資質・向上の取り組み

4

学校武道必修化」が始まり今年度で8年目を迎えるが、沖縄県においても「空手道」授業の取り組みにおいては、なかなか前に進めていない状況にある。
その背景には、「武道」特有の突きや受け、基本動作の移動、運足等日常生活にない動きがあり、保健体育教諭には難しく苦手意識を持つ傾向が見られた。
また、長年沖縄県では運動会や体育祭に向けての指導（形の挙動を覚える）に重点を置いていたため、技術的指導や教材研究、競技方法、評価等をどのように扱えばよいのかわからない状況にあった。そのため、研修会や専門的な指導を望む声が職員から多く聞かれた。

沖縄県では、「学校体育実技武道指導者養成講習会」を毎年行っており、教職員の資質・向上を図る目的で7月と1月に講習会を開

第2集では、形を「二十四・
十八手・平安初段」と広げ、多くの
の形を習得できるようになっている。

さらに、道着のたたみ方や帯の
結び方、礼法、立ち方、受け等も
盛り込んだ手引書になっている。

第1集には、沖縄県独自の形「普
及形Ⅰ・Ⅱ」が掲載され、現在で
も多くの学校が取り入れている。
さらに、道着のたたみ方や帯の
結び方、礼法、立ち方、受け等も
盛り込んだ手引書になっている。

7

空手道指導書の
手引き紹介

進めている。

また、組手競技の安全具や学
習指導の流れ、学習指導計画も載
っており、実用的な手引書として
活用されてきた。

さらに、「武道必修化」や「学
習指導要領の改訂」に伴い、「学
校体育指導資料 沖縄県版学校体
育における空手指導書（資料5）」
と視聴覚教材（DVD）を201
7（平成29）年3月に作成し、よ
り充実した指導書になり保健体育
科教諭にはとても助かる教材道具
となっている。

内容は、武道憲章、空手道憲章、
歴史年表、昭和初期の流派の流
祖、指導案、立ち方、受け、普及
形Ⅰ・Ⅱ、沖縄の伝統的な稽古法
（約束三本組手）、鍛錬法（掛手、
小手鍛え等）、沖縄独特の空用手
語（沖縄方言）と意味「ムチミ、
チンクチ、ガマク、アティファ」
等も記載している。また、DVD
には、授業前に行うウォーミング
アップの紹介等もあり、授業に役
立つ指導書となっている。

資料4

授業計画

回	時間	おもな指導内容	学習のねらい	評価
1	1	オリエンテーション (授業の進め方、歴史)	・空手道の特性、学習内容について理解する。 ・空手道の歴史や成り立ちを理解する。	・関心、意欲態度
2	2・3	礼法、基本動作	・相手を尊重し、礼儀正しい姿勢で行う。 ・基本動作の正しい位置を覚える。	・知識、理解
3	4・5	立ち方、基本動作	・基本動作は、最も大切であることを理解する。 ・立ち方の種類と意味を理解する。	・知識、理解 ・技能
4	6・7	突き、受け、蹴り	・正しい姿勢で行い、それぞれのポイントを確認する。	・技能
5	8・9	突き、受け、蹴り 形の意味、拳動を覚える	・正しい姿勢から「力」を入れる部分を確認、 正確に行う。 ・形の意味を理解する。	・思考、判断 ・関心、意欲態度
6	10・11	形練習	・お互い同士で形を鑑賞しあい、自己の課題を 見つける。	・関心、意欲態度
7	12・13	形発表、競技会	・身につけた基本動作で協力しあいチームで団 体形を完成させる。	・技能

さらに、突きや受けのポイント
を2人1組で話し合わせ、お互いに
技を見せ合うことで可視化し技の
習得にも繋げている。

また、形の単元では、最初に拳
動を前半部分と後半部分に分け、
形の技の意味を理解させながら練
習し、お互いにそれぞれの形を見
学し合い、自己の課題解決に結び
つけている。

沖縄県では、ほとんどの学校が
「普及形Ⅰ・Ⅱ」で構成された授
業を行っているが、本校では劉衛
流との関わりがあり、指導協力者
も身近にいることから、これまで
劉衛流の「二十四」の形を取り入
れ授業を行っている。

形の発表では、7年生から9年
生（中学1年生から中学3年生）
が学年や男女関係なく、身につけ
た形の動作を基に協力し合って
「団体形」を完成させ、チームご
とに発表を行い、評価し合ってい
る。

このように授業内容を今後も充
実させるためには、教職員の資
質・向上における積極的な取り組
みを行っている。

8

今後の授業に
ついて

現段階では、実技指導協力者を
中心に授業を進めており、保健体
育科教諭はそばに付きながら評価
方法を教えてもらったり、ポイン
トとなる部分を実技指導協力者と
確認し授業を進めている。

今後、授業を進めるうえで、今
まで以上に実技指導協力者との連
携を大切にし、授業計画を進めて
いかなければならない。形につ
いては、今までの団体形の発表か
ら、お互いで競技し合う形試合に
移行する必要がある。形試合を行
うことで審判方法や団体形の評価
方法を知り、相手との攻防を楽し
む授業づくりを考えなければなら
ない。

また、基本動作や立ち方等の確
認、自己の課題を克服するために
もICTの活用が重要となる。

6

実技指導協力者
派遣事業の活用

「実技指導協力者派遣事業」は、
沖縄県独自の取組として、より専
門的な実技指導力をもった武道・
ダンス実技指導者を学校体育実技
指導協力者として選任し、中学校
保健体育科学習指導における実技
指導者を計画的に派遣する事業で
ある。本校では2015（平成
27）年度からこの事業を活用し、
保健体育科教諭とT.Tを組みなが
ら授業を進めている。

実技指導協力者は、世界大会女
子団体形で優勝2回、準優勝2回
を経験したメンバーの一人である
松田由絵（旧姓嘉手納）氏を派遣
していただいている。現在松田氏
は、島内在住であり保健体育科教
諭と教材研究を行いながら授業を

9

まとめ

「武道」について、限られた授業
時間の中で、「何を生徒に学ばせ
るのか」を模索していかなければ
ならない。

また、学習指導要領の改訂によ
り、評価観点の一つである「主体
的に学習に取り組む態度」の育成
と、武道特有の「礼節による人格
形成」に向けて、今後さらに取り
組む必要がある。



座礼

塩田剛三 最後の指導 vol.1&vol.2&vol.3&vol.4

vol. 1 [DVD]カラー80分／¥5,000+税／品番SPD-8221／English subtitles
vol. 2 [DVD]カラー92分／¥5,000+税／品番SPD-8222／English subtitles
vol. 3 [DVD]カラー72分／¥5,000+税／品番SPD-8223／English subtitles
vol. 4 [DVD]カラー69分／¥5,000+税／品番SPD-8224／English subtitles



合気道の達人として知られる故塩田剛三による最後の指導を初公開
不世出の達人として日本武道界にその名を轟かせた塩田剛三。神技とも称されたその技を、選ばれた内弟子、高段者のみを対象に直接指導した技術研修会が黒帯会である。合気道の理合いを自ら丁寧に実演・解説した極めて貴重な稽古であった。数年間にわたり収録した黒帯会の映像の中から、最後の半年間の映像のみで新たに構成したのがこの新シリーズである。合気道の根本となる原理を身につけるための示唆に富んだ、極めて有用な貴重映像であり、塩田剛三の武道の遺言とも言ふべき作品である。

武神館DVDシリーズSpecial

初見良昭 忍者刀

[DVD] 35 分／¥3,000+税／品番 SPD-7109／English subtitles



初見良昭家が自ら語る忍者刀の美
写真集の理解がより深まる映像解説
『忍者刀』
忍者刀とは何か?と言うならば、忍者刀は大自然、大宇宙の中に生きる武士の魂、日本刀である一言に言える。忍者刀は一見、武士の刀と同じようであるが、真空地帯にも生きる魔力があるのである。「忍者」＝「刀」であり、それぞれの形には虚実一体の理がある。忍者刀の作りはすべて強固であり、実用に耐えるものであるが、芸術的にも世界の様々な芸術品に劣らぬ美しさを持ち、工芸作品としても非常に優れている。

アラン・GREY

大東流と合気道 ～歴史と実践～

[DVD]カラー54分／¥5,000+税／品番SPD-8404



大東流と合気道。2つの武道の誕生と発展の経緯を追ったルポルタージュ。大東流合気柔術開祖・武田惣角。合気道開祖・植芝盛平。2人の生地や修行の地を巡り、後継者たちのインタビューや演武で、それぞれの武術の足跡を辿る。さらに両者の技を比較し、技術の変遷を探る。合気道7段GREYならではの深い武道的考察に基づいた探求作品。

【収録内容】 武士による政治～合流藩日新館の教育／大東流合気柔術の系譜／植芝盛平開祖の生涯／田辺市における合気道／大東流宗家近藤勝之先生／合気道の基本技／大東流と合気道の比較／合気道の伝承／大東流から合気道へ

島津兼治

柳生心眼流口伝秘技DVD-BOX

[DVD] カラー3枚組364分／¥15,000+税／品番SPD-7531



武術界に衝撃を与えた口伝秘技3部作が早くもBOXとなって登場
秘伝とされてきた柳生心眼流の奥義、そのすべてがここに

秘伝とされ、許された門人以外には公開されることのなかった武術の奥義、そのままで失われてしまふ秘伝の技を後世に継承するため、島津兼治師はすべてを明らかにすることを決意した。時を超え、今に伝わる古の武術、その秘技を惜しみなく公開。これは現代映像による口伝である。

【主な収録内容】山勢蔵の筋肉の現代解剖／剛身(等尺性収縮)の秘技／歩み脚の心得／剛身の鍛錬秘伝／五輪砕き／筋絡活法奥義七ヶ条／殺活自在／剛身の基礎作り／勢蔵の摂理の口伝／剛身七傳の形／剛身奥義「手鎖の秘儀」／下肢の摂理／上肢の摂理／殺法の口伝／活法の口伝／一子伝の当身の秘技

vol.1 究極の山勢蔵 115分／¥5,600+税／品番SPD-7514
vol.2 剛身 99分／¥5,300+税／品番SPD-7525
vol.3 皮絡「勢奥義」 150分／¥5,300+税／品番SPD-7529

武神館DVDシリーズ天威武宝

豊崎円空就保 合気道の和合

[DVD] 115 分／¥5,000+税／品番SPD-8304／English subtitles



天地人陰陽霊気の和合とは何か？
合気道の名人・有川定輝翁より学んだ武術の奥義。その原理を豊崎円空就保は「天地人陰陽霊気の和合」と名付けた。合気とは和合であり、すべての動作は和合無くして合気たり得ない。その秘密を有川定輝翁のすべてを受け継いだ豊崎円空就保が紐解く。

【収録内容】 逆半身片手取り一教／逆半身片手取り肘抱え極め投げ／逆半身片手取り天秤投げ／逆半身片手取り四方投げ／逆半身片手取り四方投げ変化入り身投げ／相半身片手取り呼吸投げ／相半身片手取り肘抱え込み呼吸投げ／相半身片手取り三教／相半身片手取り三教変化後首絞め／上段突き一教／正面打ち一教／正面打ち入り身投げ表／正面打ち入り身投げ裏／正面打ち呼吸投げ表／正面打ち呼吸投げ裏／正面打ち表入り身呼吸投げ裏／横面打ち入り身落とし／横面打ち肘極め首落とし／横面打ち後ろ首絞め／横面打ち側面呼吸投げ

英心會館 石本誠

究極の護 サバキ DVD-BOX

[DVD] 2枚組240分／¥10,000+税／品番SPD-1880



芦原英幸師より学んだサバキ。その原理を石本誠が徹底解析。芦原会館総本部において芦原英幸先生の組手の相手を務め、サバキ技術の確かさを認められた石本誠が、生涯をかけて探求し続けてきたサバキの極意がここに。さらに井上強一館長による解説演武、新里勝彦塾長による身体操作解説、芦原英幸先生によるサバキ指導風景と豪華映像特典もたっぷり！

【収録内容】＝上巻＝ナイハンチの型／喜喜場塾空手の身体操作法／右パンチに対してのサバキ／左パンチに対してのサバキ／右前蹴りに対してのサバキ／左前蹴りに対してのサバキ／少年部のサバキ 二下巻＝ナイハンチの型／ボジショニング／左右ローキックに対してのサバキ／左右ミドルキックに対してのサバキ／左右ハイキックに対してのサバキ／掴まれた場合のサバキ／サバキ・ナイハンチの根幹となる腰使いの検証

単品も好評発売中 上巻・下巻(各巻 ¥5,300+ 税／品番 SPD-1881,1882)

富田高久

肥田式強健術 入門篇&実践篇DVD-BOX

[DVD] 2枚組176分／¥8,500+税／品番SPD-9416



肥田式強健術を理解し実践するための完全版映像作品
真の健康を目指す肥田春充が創始した肥田式強健術は、気合とともに丹田に力を集めることを基本とした日本独自の身体運用方法である。強健術の基本原理と身体の使い方を紹介した入門篇、呼吸法と正しい動作を説明した実践篇。肥田式強健術を身につけるために必要な全てを収録した2枚のDVDをセット。

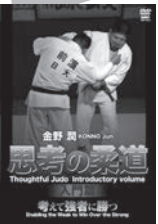
【収録内容】＝入門篇＝ 真健康の三大要素／内臓操練法／正中心鍛錬法の基本原則／簡易強健術の動作／簡易強健術の練習＝実践篇＝ 正中心修得の三大要素／内臓操練法(呼吸法)／簡易強健術の原理／簡易強健術の動作／簡易強健術の練習

単品も好評発売中 入門篇・実践篇(各巻 ¥4,500+ 税／品番 SPD-9412,9413)

金野 潤

思考の柔道 入門篇 考えて強者に勝つ

[DVD] カラー70分／¥5,300+税／品番SPD-3554／English subtitles



勝つために必要な練習とは？

目先の勝利ではなく、本当の強さを身につけるための方法
日大柔道部を躍進させ、さらに全日本チームへの強化に励む金野潤。その指導力の秘密を探る。

目先の勝利を追って小手先の技術を身につけるのではなく、大きく成長し世界に羽ばたく選手になることを目的とする。そのために身につけるべき力と技を紹介する。強固な土台が無ければすべての技は意味をなさない。まずしっかりと土台を作ることが何より大切である

【収録項目】柔道上達の土台作りムーブメントプレレーション／礼法基本姿勢／基本動作／受身／整理運動

シリーズ

中学校武道 授業の充実に向けて

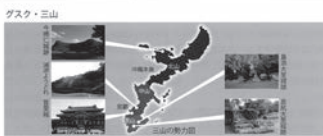
資料5

「学校体育における空手道指導書」表紙

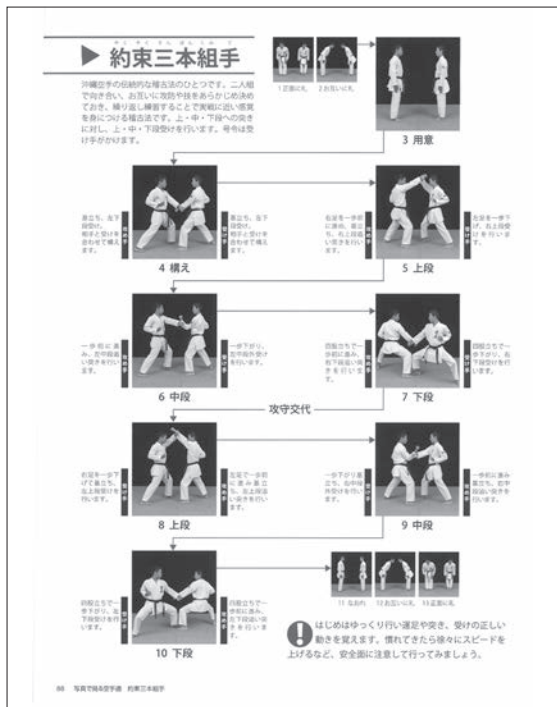


歴史年表

年	沖縄(琉球)	空手
1879	・最初の琉球「グスタク(舞)」 ・三山 龍山・中山・高山	・琉球(琉球)から伝来した空手(琉球)「唐手(テウー)」
1912	・中山、龍山、中山、高山	・1912～1917 大東流(大東)と大東流(大東)
1918	・第一回 ・1918 龍山、中山、高山	・1918～1919 大東流(大東)と大東流(大東)
1919	・大東流、中山、龍山、中山、高山	・1919 龍山、中山、高山
1920	・大東流、中山、龍山、中山、高山	・1920 龍山、中山、高山
1921	・大東流、中山、龍山、中山、高山	・1921 龍山、中山、高山
1922	・大東流、中山、龍山、中山、高山	・1922 龍山、中山、高山
1923	・大東流、中山、龍山、中山、高山	・1923 龍山、中山、高山
1924	・大東流、中山、龍山、中山、高山	・1924 龍山、中山、高山
1925	・大東流、中山、龍山、中山、高山	・1925 龍山、中山、高山
1926	・大東流、中山、龍山、中山、高山	・1926 龍山、中山、高山
1927	・大東流、中山、龍山、中山、高山	・1927 龍山、中山、高山
1928	・大東流、中山、龍山、中山、高山	・1928 龍山、中山、高山
1929	・大東流、中山、龍山、中山、高山	・1929 龍山、中山、高山
1930	・大東流、中山、龍山、中山、高山	・1930 龍山、中山、高山
1931	・大東流、中山、龍山、中山、高山	・1931 龍山、中山、高山
1932	・大東流、中山、龍山、中山、高山	・1932 龍山、中山、高山
1933	・大東流、中山、龍山、中山、高山	・1933 龍山、中山、高山
1934	・大東流、中山、龍山、中山、高山	・1934 龍山、中山、高山
1935	・大東流、中山、龍山、中山、高山	・1935 龍山、中山、高山
1936	・大東流、中山、龍山、中山、高山	・1936 龍山、中山、高山
1937	・大東流、中山、龍山、中山、高山	・1937 龍山、中山、高山
1938	・大東流、中山、龍山、中山、高山	・1938 龍山、中山、高山
1939	・大東流、中山、龍山、中山、高山	・1939 龍山、中山、高山
1940	・大東流、中山、龍山、中山、高山	・1940 龍山、中山、高山
1941	・大東流、中山、龍山、中山、高山	・1941 龍山、中山、高山
1942	・大東流、中山、龍山、中山、高山	・1942 龍山、中山、高山
1943	・大東流、中山、龍山、中山、高山	・1943 龍山、中山、高山
1944	・大東流、中山、龍山、中山、高山	・1944 龍山、中山、高山
1945	・大東流、中山、龍山、中山、高山	・1945 龍山、中山、高山
1946	・大東流、中山、龍山、中山、高山	・1946 龍山、中山、高山
1947	・大東流、中山、龍山、中山、高山	・1947 龍山、中山、高山
1948	・大東流、中山、龍山、中山、高山	・1948 龍山、中山、高山
1949	・大東流、中山、龍山、中山、高山	・1949 龍山、中山、高山
1950	・大東流、中山、龍山、中山、高山	・1950 龍山、中山、高山
1951	・大東流、中山、龍山、中山、高山	・1951 龍山、中山、高山
1952	・大東流、中山、龍山、中山、高山	・1952 龍山、中山、高山
1953	・大東流、中山、龍山、中山、高山	・1953 龍山、中山、高山
1954	・大東流、中山、龍山、中山、高山	・1954 龍山、中山、高山
1955	・大東流、中山、龍山、中山、高山	・1955 龍山、中山、高山
1956	・大東流、中山、龍山、中山、高山	・1956 龍山、中山、高山
1957	・大東流、中山、龍山、中山、高山	・1957 龍山、中山、高山
1958	・大東流、中山、龍山、中山、高山	・1958 龍山、中山、高山
1959	・大東流、中山、龍山、中山、高山	・1959 龍山、中山、高山
1960	・大東流、中山、龍山、中山、高山	・1960 龍山、中山、高山
1961	・大東流、中山、龍山、中山、高山	・1961 龍山、中山、高山
1962	・大東流、中山、龍山、中山、高山	・1962 龍山、中山、高山
1963	・大東流、中山、龍山、中山、高山	・1963 龍山、中山、高山
1964	・大東流、中山、龍山、中山、高山	・1964 龍山、中山、高山
1965	・大東流、中山、龍山、中山、高山	・1965 龍山、中山、高山
1966	・大東流、中山、龍山、中山、高山	・1966 龍山、中山、高山
1967	・大東流、中山、龍山、中山、高山	・1967 龍山、中山、高山
1968	・大東流、中山、龍山、中山、高山	・1968 龍山、中山、高山
1969	・大東流、中山、龍山、中山、高山	・1969 龍山、中山、高山
1970	・大東流、中山、龍山、中山、高山	・1970 龍山、中山、高山
1971	・大東流、中山、龍山、中山、高山	・1971 龍山、中山、高山
1972	・大東流、中山、龍山、中山、高山	・1972 龍山、中山、高山
1973	・大東流、中山、龍山、中山、高山	・1973 龍山、中山、高山
1974	・大東流、中山、龍山、中山、高山	・1974 龍山、中山、高山
1975	・大東流、中山、龍山、中山、高山	・1975 龍山、中山、高山
1976	・大東流、中山、龍山、中山、高山	・1976 龍山、中山、高山
1977	・大東流、中山、龍山、中山、高山	・1977 龍山、中山、高山
1978	・大東流、中山、龍山、中山、高山	・1978 龍山、中山、高山
1979	・大東流、中山、龍山、中山、高山	・1979 龍山、中山、高山
1980	・大東流、中山、龍山、中山、高山	・1980 龍山、中山、高山
1981	・大東流、中山、龍山、中山、高山	・1981 龍山、中山、高山
1982	・大東流、中山、龍山、中山、高山	・1982 龍山、中山、高山
1983	・大東流、中山、龍山、中山、高山	・1983 龍山、中山、高山
1984	・大東流、中山、龍山、中山、高山	・1984 龍山、中山、高山
1985	・大東流、中山、龍山、中山、高山	・1985 龍山、中山、高山
1986	・大東流、中山、龍山、中山、高山	・1986 龍山、中山、高山
1987	・大東流、中山、龍山、中山、高山	・1987 龍山、中山、高山
1988	・大東流、中山、龍山、中山、高山	・1988 龍山、中山、高山
1989	・大東流、中山、龍山、中山、高山	・1989 龍山、中山、高山
1990	・大東流、中山、龍山、中山、高山	・1990 龍山、中山、高山
1991	・大東流、中山、龍山、中山、高山	・1991 龍山、中山、高山
1992	・大東流、中山、龍山、中山、高山	・1992 龍山、中山、高山
1993	・大東流、中山、龍山、中山、高山	・1993 龍山、中山、高山
1994	・大東流、中山、龍山、中山、高山	・1994 龍山、中山、高山
1995	・大東流、中山、龍山、中山、高山	・1995 龍山、中山、高山
1996	・大東流、中山、龍山、中山、高山	・1996 龍山、中山、高山
1997	・大東流、中山、龍山、中山、高山	・1997 龍山、中山、高山
1998	・大東流、中山、龍山、中山、高山	・1998 龍山、中山、高山
1999	・大東流、中山、龍山、中山、高山	・1999 龍山、中山、高山
2000	・大東流、中山、龍山、中山、高山	・2000 龍山、中山、高山
2001	・大東流、中山、龍山、中山、高山	・2001 龍山、中山、高山
2002	・大東流、中山、龍山、中山、高山	・2002 龍山、中山、高山
2003	・大東流、中山、龍山、中山、高山	・2003 龍山、中山、高山
2004	・大東流、中山、龍山、中山、高山	・2004 龍山、中山、高山
2005	・大東流、中山、龍山、中山、高山	・2005 龍山、中山、高山
2006	・大東流、中山、龍山、中山、高山	・2006 龍山、中山、高山
2007	・大東流、中山、龍山、中山、高山	・2007 龍山、中山、高山
2008	・大東流、中山、龍山、中山、高山	・2008 龍山、中山、高山
2009	・大東流、中山、龍山、中山、高山	・2009 龍山、中山、高山
2010	・大東流、中山、龍山、中山、高山	・2010 龍山、中山、高山
2011	・大東流、中山、龍山、中山、高山	・2011 龍山、中山、高山
2012	・大東流、中山、龍山、中山、高山	・2012 龍山、中山、高山
2013	・大東流、中山、龍山、中山、高山	・2013 龍山、中山、高山
2014	・大東流、中山、龍山、中山、高山	・2014 龍山、中山、高山
2015	・大東流、中山、龍山、中山、高山	・2015 龍山、中山、高山
2016	・大東流、中山、龍山、中山、高山	・2016 龍山、中山、高山
2017	・大東流、中山、龍山、中山、高山	・2017 龍山、中山、高山
2018	・大東流、中山、龍山、中山、高山	・2018 龍山、中山、高山
2019	・大東流、中山、龍山、中山、高山	・2019 龍山、中山、高山
2020	・大東流、中山、龍山、中山、高山	・2020 龍山、中山、高山



約束手本組手



空手の歴史 (ワークシート)

3 空手道グリーター(歴史)

空手道の歴史

() 年 () 組 () 番 氏名 ()

(1) 琉球の歴史

12世紀頃、各地の集団をまとめる「彼明」が出現し「グスタク」が形成された。その後、諸藩を中心とする「(中山)」、今帰仁を中心とする「(北山)」、糸満の島尻大里を中心とする「(高山)」、「(三山(さんざん))」と呼ばれる三大勢力が形成された。

1372年、中山の親王が初めて「中国(明)」に貢貢。これ以降、諸外国との活発な交易が開始され繁栄していった(大交易時代)。

1429年、尚巴志が三山を統一し、首里城を中心とする「(琉球王国)」が誕生した。

(2) 「唐手」の発生

「唐手」の発生・形成過程については、現在の歴史書上、次のように語られている。

・琉球に古来よりあったとされる武術(「手」)への歴史家から伝来した(中国(明))の影響。
・中国との交流開始以降に伝来した(中国(明))を琉球の歴史・文化の源流とする過程で形成。
・一度の琉球文化に際して(琉球)などの様々な時代の影響。

「手」は中国(明)の影響を受けて、長い年月をかけて門外不出、一子相伝の秘技として、先達により体系化され、当時は「(唐手(トウディー))」と呼ばれた。

(3) 1800年代末頃まで、「唐手(トウディー)」は、その形(カタ)の特色、教習体系、伝承形態にもなっていて、以下の3つに分かれる。

①(唐手)手 → 首里城を中心に首里士族の間で発達した。

②(龍山)手 → 糸満市を中心にして久米・島崎・西村で伝わった。

③(島)手 → 一般方面で広く伝わった。

(4) 学校体育への導入と大衆化

1905(明治38)年、「(糸満市)」は、「(唐手(トウディー))」として私立中学校にて正統派を導入した。これ以降、運動会等で唐手・古武術が演武されるようになり大衆化が図られた。

(5) 昭和初期の「唐手」の命名

新流派	流祖名(宮城 長順)	小林派	流祖名(柳 龍雄)
松林派	流祖名(長瀬 研真)	上地派	流祖名(上地 完文)
松洲派	流祖名(富名(松洲)義勝)	糸満派	流祖名(藤田 賢和)
和流派	流祖名(大塚 博紀)	新流派	流祖名(柳井 孝孝)

(6) 「唐手」表記について

1906(明治39)年(10)月(25)日「唐手所談会」(琉球新報社主催)が組織で開かれ、正式に「唐手(トウディー)」を「(空手(トウディー))」に改めた。

(7) 「普及形1」・「普及形2」の制定と学校体育への導入

1941(昭和16)年、「(長瀬 研真)」が「普及形1」、「(宮城 長順)」が「普及形2」を制定した。この二つの形は、現在、本県学校体育で広く普及・行われている。

74 第2章 第6節 琉球県立科学館設置「空手道の歴史」設置委員会

※沖縄県 「学校体育における空手道指導書」より